

「一人一人の可能性を伸ばす多様な学び」

児童生徒の多様な学びのニーズに対応し、創意工夫を生かした学びが笑顔をつくる

多様な学びって何？

何を学ぶから、学び方を学ぶへのシフト



その人に合った学びや学び方を尊重して、学びを促進していくことです。

学びの「機会」「方法」を確保し「いつ」「どこで」「誰と」

「何を」「どのように」学ぶのかを、学習者自身が選ぶ学びのことで。

学び方を学ぶって？



これまでは、**学んで得た知識や技能をたくさん蓄えることが学力**と考えられていました。つまり、**何を学んだかが大切**とされていました。



これから求められる学力は、「**学ぶ力そのもの**」、つまり**学び方をどれだけ学んだかが大切**になってきます。

なぜ多様な学びが必要なの？

求められるのは「学ぶ力そのもの」だから

「何を学んでおけばよいのか予測が難しい」時代を迎えています。したがって、これからの時代に求められる学力は「学ぶ力そのもの」になります。



予測困難な時代だからこそ、生涯にわたって学び続けるということ自体の力をつけられるようにしていくことが求められています。

自分に合った学び方を自分で選択！

予測困難な時代の今、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問題にどう立ち向かうかが問われています。

立ち向かうために手がかかりとなるのが、**人の能力の多様性**です。人にはそれぞれ得意不得意があります。**自分の得意（強味）生かした学び**を選択し、学ぶことで、答えを見い出せる力を身につけることができます。

そのために、**学びの機会と学びの方法を尊重**することが大切です。

どのように取り入れるの？

まず子ども一人一人を見る

子ども一人一人の学びを大切にするためには、それぞれの個性を理解することが大切です。

そして、「子どもたち一人一人がどう学べば「学ぶ力がつくのか」を教師が考えながら授業づくりを行うこと、それ自体が多様な学びへの一歩となります。



教師がまず多様な学びの機会を提供

教師は子どもと関わりながら、子どもの可能性（得意不得意）を感じています。その関わりに、「個別最適な学び…」のヒントがあります。

人と話することが得意な子ども、ICT活用が効果的な子どもなど、日々の関わりで教師が感じた子ども一人一人の能力を活かす学び方を実践してはどうでしょうか。

多様な学びで「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の実現に向けた授業改善に一緒に取り組み、子どもの可能性を伸ばしていきましょう。

個別最適な学びとの関連

子どもが自分に最適な学習内容や学習方法を自己決定する際、自分の得意なこと、不得意なことなど自分に合わせて学び方を選択し、実践していきながら、学びを自己調整する必要があります。その際に、多様な学びの環境が重要な役割を果たします。



多様な学びと個別最適な学びと協働的な学び
(文部科学省)



多様な学びをもっと詳しく
～ICT活用編～
(文部科学省 StudyStyle)

